

## 各地の話題 東松島市



2020年5月29日号掲載

### 幸満つる郷ディスカバーむらの宝 ～優良事例に選定～

幸(さち)満(み)つる郷(さと)KDDIエボルバ野蒜は、農作物栽培拠点として東日本大震災の被災地の有効活用と雇用機会の創出を目的に、2017年5月に開所した。

地元の障害者やアクティブシニアを積極的に雇用し、ベビーリーフをはじめ、ミニトマトやブルーベリーなど約30種類の野菜や果樹を生産・出荷している。

令和元年度「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」ビジネス部門において、東北農政局管内100件の応募の中から優良事例に選ばれた。

被災地での雇用促進、スマート農業を取り入れた働きやすい職場づくり、地域のコミュニティ拠点としての活動が高く評価された。

昨年6月には、AI灌(かん)水施肥システム「ゼロアグリ」を導入。ミニトマトの収穫量と旨味・品質アップを実現した。



農業IoT「ゼロアグリ」を活用した先端農業の取り組みは、モバイルコンピューティング推進コンソーシアムのモバイルビジネス賞を受賞した。

溝江健太郎所長(41)は、「今後も積み重ねた経験値をAIに記憶し、生産性の向上と消費者に美味しいミニトマトを提供していきたい」と抱負を語る。

【記事提供：東松島市農業委員会】